

51.「学校教育」と「保育」の違い

2013年9月1日 社会福祉法人 江刺保育園

乳児期から幼児期の2歳から3歳に掛けて子ども達は体も心も劇的に成長します。乳児期が過ぎると、自分の家の中から外側の環境や家族以外の人に目が向くようになり、他者との関係の中で生活する準備を行わなければなりません。この時期の子ども達は考える力と運動する力が一段と高まり自分の活動の範囲を広げたいという思いが強くなります。また、2歳から3歳の時期は言葉も獲得します。言葉は様々なことを考え、自分を表現するための道具となります。また生活場面に沿った適切な言葉の使い方を体得します。

この時期において文字が書けるとか、書けないとか、読める、読めないは大切な事ではありません。それよりずっと大切なことは、優しく愛情に溢れた言葉に触れることです。これによって自分は愛されているという感覚をしっかりと意識することが大切なのです。それができてはじめて文字の読み書きの学習に進むことができます。また3歳になる時期はごく身近な人との関わりを土台として、集団の中での生活体験が必要になります。この集団の中で自分はどんな人間であるのか気付くのです。他者との関わりによって自分という存在を明確に認識できるようになるのです。従って集団で生活することは非常に大切な事なのです。この時期の子ども達のおもちゃの取り合いや、些細なケンカは、社会の中で生きるための基礎となる重要な体験です。ここでの保育者の役割は、幼い子供たちの仲介役として子どもの訴えを聴くことです。仲介役はどちらが悪いとか良いとかを裁くのではなく、お互いの意見をしっかりと聴きその訴えを理解し、個々の子どもの心情に沿って、お互いが許し合うための仲介者になることです。

子どもたち同士がお互いの存在をお互いに認め、その関係を大切にしたいという心を育てることが保育園の大切な働きなのです。そのために保育環境を設定し、遊びや体験活動を計画します。これを保育計画に盛り込みます。この一連の働きを保育園では「保育する」と言っています。保育は子ども達に文字や数などを教えることではなく、お互いの存在をお互いが認め、その関係を大切に命の尊さを心の中にしっかりと刻み込むことなのです。



ここが小学校の教育と保育の違いなのです。保育の結果は具体的な形として目に見えないことの方が多いのです。しかし、保育園は子ども達の心の成長を支える場所であり、子ども達一人ひとりが「愛し愛される」という関係を基礎とした精神基盤を形成する場所であることを理解して頂きたいと思います。

さけとホウレン草のグラタン (こども4人分)

さけ：4切、
しおこしょう：少々
ホウレン草：40g、
コーン缶：少々
バター：20g、チーズ：少々
小麦粉：大さじ2
スキムミルク：20g
(牛乳でも可)

作り方

- ① さけに塩コショウをして下味する。
ホウレン草を茹でて細かく切る。
- ② バター、小麦粉、スキムミルク(水で溶く)
でホワイトソースを作る。
- ③ ②のホワイトソースとホウレン草、
コーン缶を混ぜる。
- ④ ホイルにさけを乗せ③をかけて
チーズを乗せてオーブンで焼く。(180℃で10～15分)

